



(1列目左から) 宗善寺住職・福成寺前々住職・真浄寺前住職
(2列目左から) 新福寺前住職・興安寺前住職・善仁寺前住職・忠綱寺住職
(3列目) 教元寺住職
(昭和55年2月7日東京三組研修旅行にて撮影)

組報のテーマが大変難しく、どのように書いてよいか悩みました。東京は浅草に別院があった関係で一組と六組として形成され、その後、昭和三十三年に三組と

住職に聞く

「東京三組の思ひ出」

渡邊住職インタビュー

○住職になった頃の東京三組はどんな雰囲気でしたか？

(住) 二九歳の時に結婚して、その2週間後に先代が亡くなってから住職たちの集まりに入ったんだけど、みんな年上で何をしてるか分からなかったですね。

○昨年の御遠忌の本山団体参拝の思い出を教えてください。

(住) 参加していただいた方は忠綱寺を守ろうという意識だけ

から本山を護持する一員であるということを考えるいい機会になったんじゃないですか。宴会とかカラオケでご門徒さんたちと住職との関係の殻が破れたような気がします。

○「真宗門徒のつどい」について？

(住) まだどこか(与えられたものを)消化するだけに終わっている部分がある。でも、会場をいろいろ見ていただいたのはよかったですんじゃないですか。

○これからの三組に願うことは？

(住) いつでもお茶を飲みに来

分離して七組が出来、なお昭和三十五年には、五組から分離して八組となりました。当時は東京三組は十四ヶ寺でした。現在は十一ヶ寺です。近藤組長の時(昭和五十九年五月〜平成三年三月)に、門徒会として結成され、推進員養成講座、昨年は親鸞聖人七百五十回忌法要・本山団体参拝に向け、「親鸞聖人の人生に学ぶ」「真宗門徒のつどい」年三回の講座を行ってきました。これからも門徒会の皆様と相談しながら進めて参りたいと思います。教区では来年には親鸞聖人七百五十回忌法要(真宗会館)、又御遠忌記念大会(東京国際フォーラム)を行うことになっていきます。皆様のご参拝ご参加をお願いします。

合掌

(文) 忠綱寺 渡邊住職

れる場として寺が開かれるといいでしょ。年代の別なく参加しているのが三組の特徴だから、これからも語り合える関係が続けて欲しいですね。

(聞き手) 渡邊尚康・忠綱寺副住職



東京三組 お寺探訪

第二回 専西寺

今回は白山の閑静な一角にある専西寺さんを訪問しました。門から見えるご本堂（下写真）はインドの僧院？とも思えるエキゾチックな雰囲気です。前々住職が築地本願寺を参考として現在の姿となったそうです。

ご開山は源義家の末流の方で、親鸞聖人に深く帰依し、専西坊という法号で、鎌倉雪ノ下に草庵を結び一向山専西坊と名づけました。承元元年（1207年）のことでした。その後、江戸湯島へ（寛永三年/1627年）移りました。しかし、その後、火災や戦災などの難に遭い、その度に再建され、現在の地に移ったようです。（詳しくは専西寺のホームページを参照下さい。）
(<http://www.5.ocn.ne.jp/~sensaiji/>)



ご本尊は源信和尚（恵心僧都/942~1017年）作と伝わっています。境内墓地には高田藩士のお墓があり、古くからのご門徒も高田（上越）出身者が多くいらつしやるとのこと。これには幕府が江戸に移ってから高田出身の士族が集まったという説があります。さて、ご本堂内は6年前に修復を行い、とてもキレイです。そして、床は全面床暖房となり（！）寒い冬もとても快適です。そんなご本堂では

東京三組のお知らせ

東京三組聞法会が来年度(平成25年)下記日程にて開催されます。皆様のご参加をお待ちしております。

東京三組聞法会「真宗門徒のつどい」
講師 佐野明弘氏

- | | |
|--|------|
| (日 時) | (会場) |
| ● 第一日 2月9日(土) Pm2:00~5:00(Pm1:30受付開始) | 専西寺 |
| ● 第二日 4月7日(日) Pm2:00~5:00(Pm1:30受付開始) | 教證寺 |
| ● 第三日 5月19日(日) Pm2:00~5:00(Pm1:30受付開始) | 念速寺 |
- 参加費 ¥1,000円/人/日(予定)

※お申込み・お問合せは所属寺院もしくは東京三組のお寺までご連絡下さい。(どなたでもご参加できます。)



東京三組組報「縁」ではよりよい組報作成のため皆様のご意見・ご感想・ご質問をお待ちしております。東京三組 組報事務局までお送り下さい。
所在地) 東京都文京区小石川4丁目13番19号 善仁寺内・東京三組組報事務局
電話) 03-3811-4803
E-mail) kbkpm386@ybb-ne.jp

編集後記

前号から十ヶ月ぶりに第二号発行できました。ところで、組報の名前「縁」についてお話していませんでした。原始仏教経典に「同じ道を歩く友と出逢うことこそがすべてだ」(サンユッタ・ニカーヤ/相應部経典)というお釈迦様の言葉がありますが、ふっと振り返ってみたらここに私がいることは全て「出逢い」という「縁」だったなあ・という感じの意味として選びました。組報「縁」が皆様との出逢いとなることを願って。ではまた次号で。

合掌 (こようまん)



さまざまな集いがあります。お寺の集いについて、「お寺を縁にお念仏の教えに出遇ってよかったと言ってくれる人が一人でも多く生まれてくれればと思っています。」(住職)とのお言葉をいただきました。

- 同朋の会 (壮年聞法会)
 - ※毎月第一または第二日曜日
 - ※参加自由・午後一時〜
- 車座の会 (仏教青年会)
 - ※毎月第四または第五土曜日
 - ※参加自由・午後三時〜

(詳細は直接、専西寺へお問い合わせ下さい。)